琉球新報
2011(平成23)年12月28日水曜日 24面【社会】掲載

「結」の心で

中城災害現場 電飾きらめく

読んで広がる NIE

【中城】2006年6月、長雨による土砂崩れで決壊し、その後に復旧した中城村の県道35号沿いの斜面に27日、「結」の電飾文字が点灯された。東日本大震災が発生した11年、忘れずに「助け合いの心を大事にしたい」との願いが込められている。電飾は来年1月6日まで続く。

電飾文字は道路が復旧した08年から村商工会が始め、今年は2年ぶり3回目。これまでは「中城」の文字を点灯させていたが、今回は村民の意見もあり、「結」の一文字に決まった。

27日には村関係者らが出席した点灯式が開かれた。文字は38メートル四方で、電球約200個を使っており、設置には中城電業会が協力した。

国道329号沿いには携帯電話のカメラで撮影する通行人もいた。浜田京介村長は「復興のシンボルとして、村民や道路を通る人たちが生きていることに感謝し、災害のない日々を念じてほしい」と話した。

2006年の土砂崩れから復旧し、結の電飾文字で飾られた県道35号の斜面＝27日、中城村